



日中青年交流センタープロジェクト会合

公益財団法人 国際通貨研究所
専務理事 渡辺 喜宏

10月26日、27日の両日、杭州市浙江大学キャンパスで、中国五大学（北京・清華・上海交通・復旦・浙江の各大学）と日本側三大学（東京・京都・早稲田）の責任者と香港篤志家・日本側の識者と弊通貨研担当者が一堂に会し、首題プロジェクトの推進について協議を行った。

首題プロジェクトは、香港の篤志家―東大留学経験者の華僑の発意と多額の寄付金により開始された。篤志家の寄付の趣旨は、中国の五大学に日中の青年(学生・研究者)共同生活用宿舎の建設を行い、両国青年の交流事業を展開し、両者の末長い友情を涵養（かんよう）し、両国友好の礎をきづくところにある。又日本側でも中国での動きに呼応し、中国人学生・研究者を受け入れ、共同生活と交流を行う事業を東大・早稲田はすでに着手している。日中双方が事業の進捗を報告・情報交換を行った。

最近の両国間の緊張状況は、相互の指導者の意思疎通の不十分さにも一因があるろう。日中の上記大学卒業者が、将来両国の指導的立場で、十分な意思疎通をすれば、不幸な事態は回避できるという期待もある。今回の会合には、両国間の緊張状態にも関わらず責任者が参加し、日中青年交流センターに対する大学の期待を裏付けた。弊研究所は、日本での首題事業のカタリストとしての役割を果たしたいと願い、首題会合に参加した。

日本での同宿舎建設費・交流事業費は多額に上るため、篤志家と企業のCSR活動に依拠することとなるが、この実現には困難が予想される。しかし最近の朝日新聞のインタビュー記事に見られる通り、本プロジェクトに寄付の意向を示している企業家が居り、大変心強い。

中国は中央の指示により、ハイレベルでの日中交流をストップしている。しかし様々なリスクが想定される中で、会議運営の人員を動員し、経費を負担した本

会合主催者、浙江大学の幹部に深甚な敬意と感謝の意を表したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2012 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>